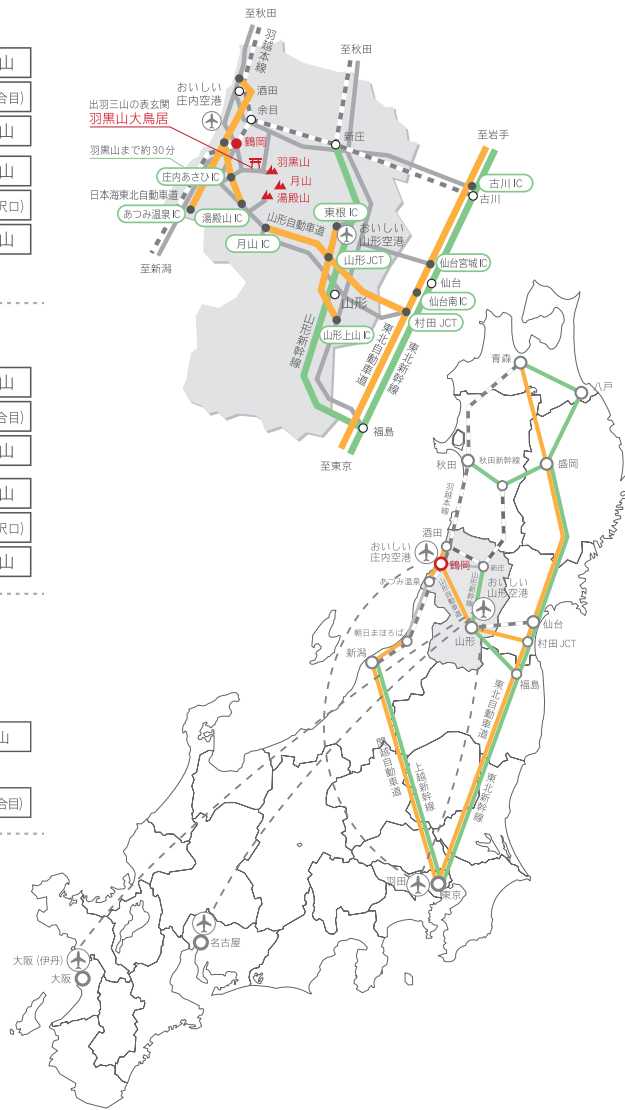
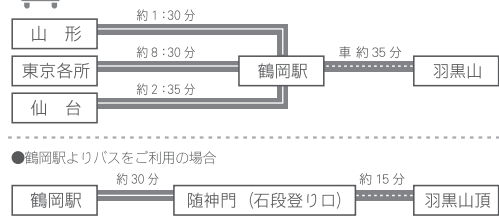
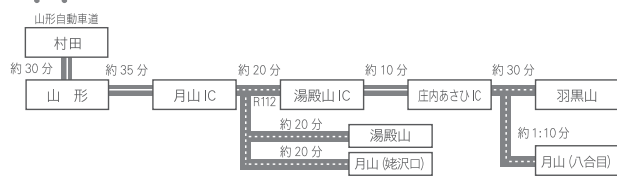
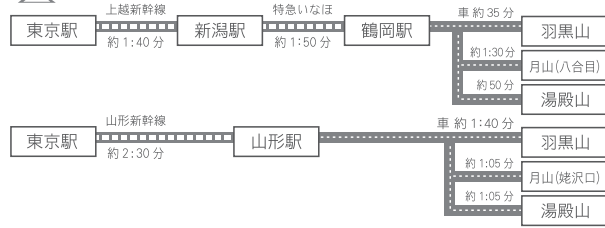
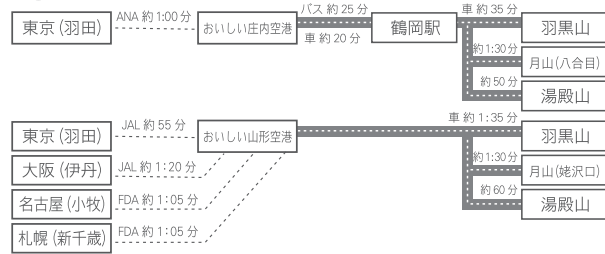


交通アクセス



日本遺産とは、地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化・観光振興を図るものです。



出羽三山「生まれかわりの旅」推進協議会
 (事務局：山形県観光文化スポーツ部 文化振興・文化財課)

TEL. 023-630-3342
<https://nihonisan-dewasanzan.jp/>



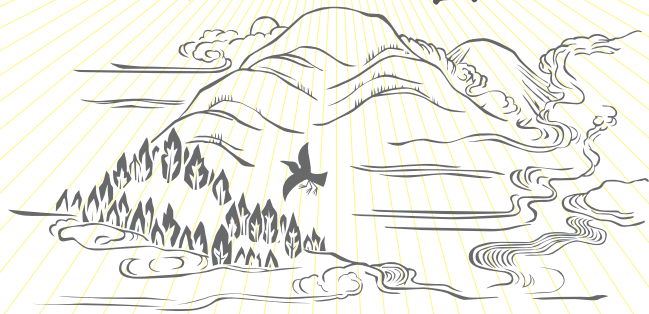
出羽三山

明日のわたしに逢える場所

Dewa Sanzan



羽黒山 月山 湯殿山



出羽三山

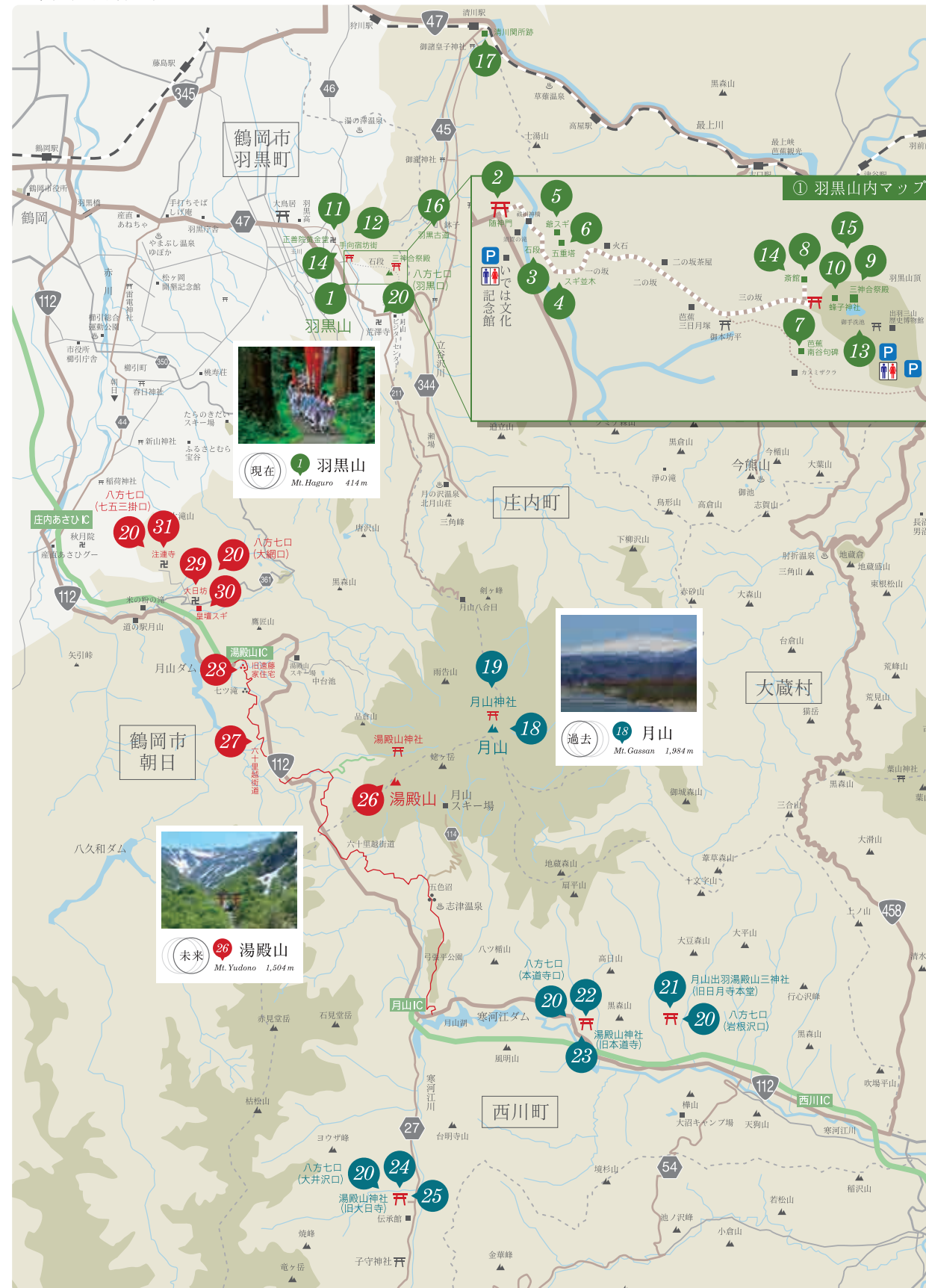
自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」

古より信仰をあつめてきた出羽三山。
羽黒山、月山、湯殿山の三山を巡ることは、
死と再生を辿る
「生まれかわりの旅」といわれてきました。

神聖な山の靈気に包まれて
三山の神仏に祈りを捧げる。

ただ在るのは、裸の魂。

身も心もリセットされて
明日への新たな生命力に満たされる
特別な場所。



自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」



山形県の中央に位置する出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道では、羽黒山は人々の現世利益を叶える現在の山、月山はその高く秀麗な姿から祖霊が鎮まる過去の山、湯殿山はお湯の湧き出る赤色の巨岩が新しい生命の誕生を表す未来の山と言われます。

三山を巡ることは、江戸時代に庶民の間で「生まれかわりの旅」として広がり、地域の人々に支えられながら、日本古来の、山の自然と信仰の結び付きを今に伝えています。旅は神域の境界である羽黒山大鳥居から始まり、随神門は更なる聖域への入口です。参道の石段の両側には天を覆うような杉並木が山頂まで続き、訪れる者に自然の霊気と自然への畏怖を感じさせ、心身を潤し明日への活力を与えてくれます。

「生まれかわりの旅」のはじまり

出羽三山は、山形県の中央にそびえる羽黒山(414m)・月山(1,984m)・湯殿山(1,504m)の総称であり、月山を主峰とし羽黒山と湯殿山が連なる優美な稜線を誇ります。

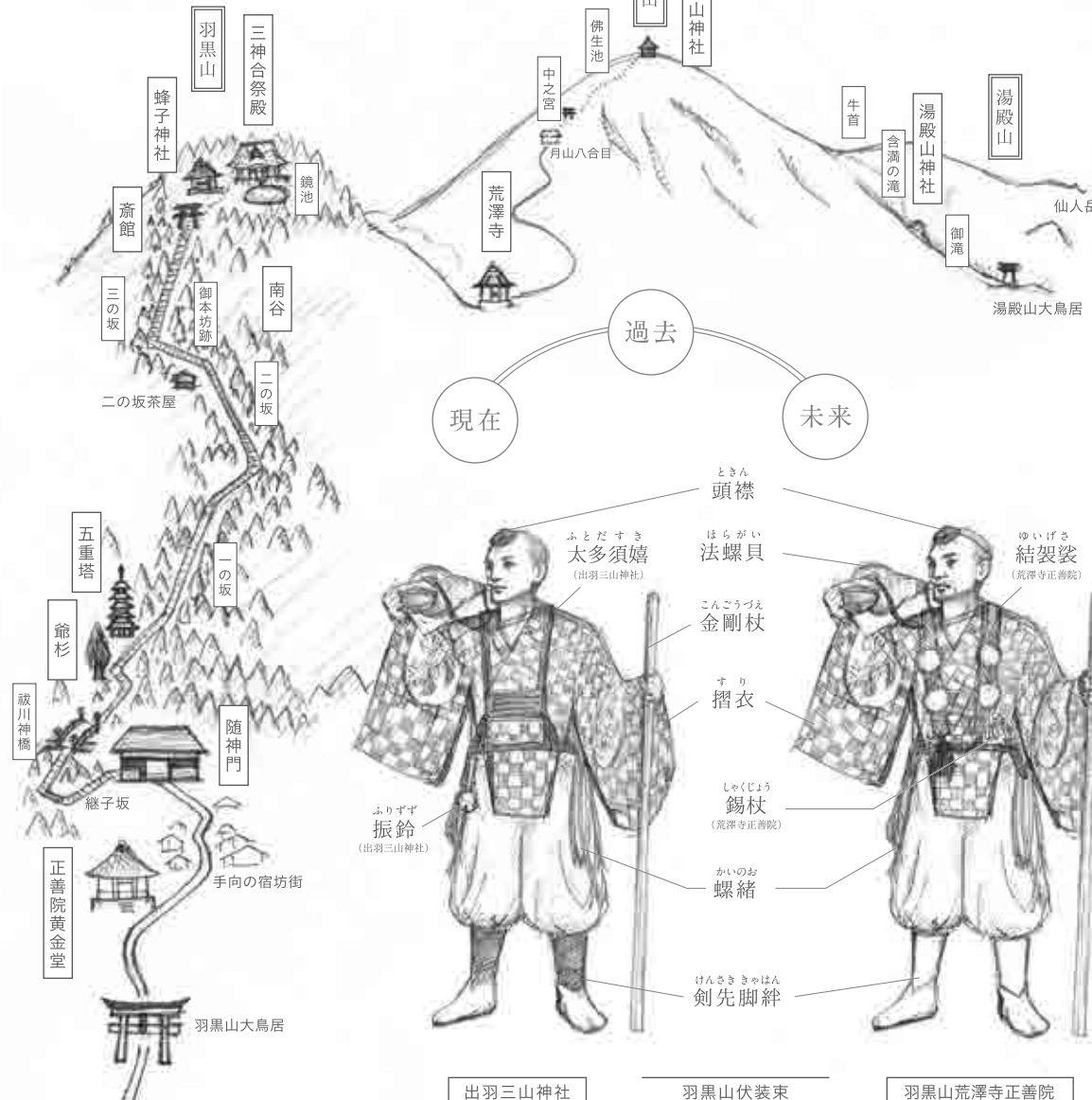
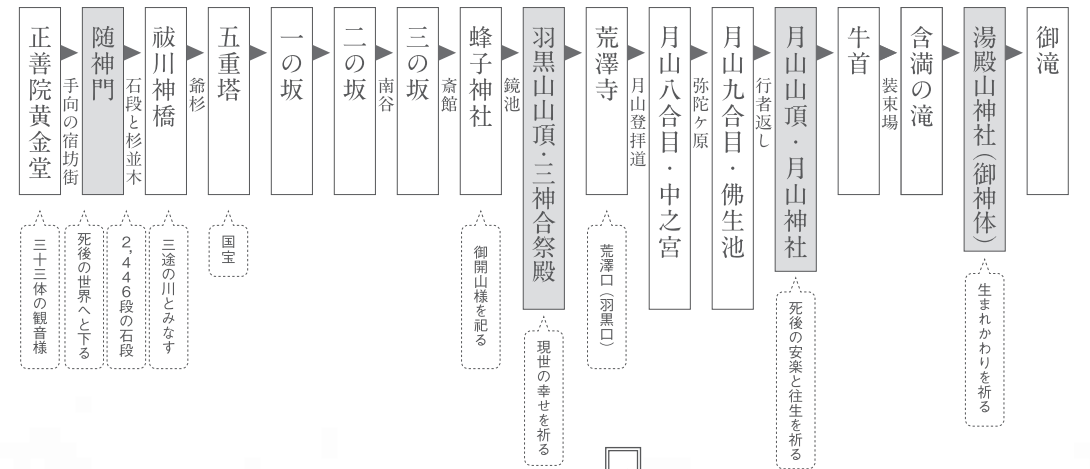
おおよそ1,400年前、崇峻天皇の御子の蜂子皇子が開山したと言われる羽黒山は、羽黒修験道の行場であり中枢です。修験道とは、自然信仰に仏教や密教が混じり生まれた日本独特の山岳信仰です。羽黒修験道の極意は、羽黒山は現世の幸せを祈る山(現在)、月山は死後の安楽と往生を祈る山(過去)、湯殿山は生まれかわりを祈る山(未来)と見立てることで、生きながら新たな魂として生まれかわることができるという巡礼は江戸時代に庶民の間で、現在・過去・未来を巡る「生まれかわりの旅」(羽黒修験道では「三関三渡の行」と言う。)となって広がりました。

羽黒山の秋の峰入り ～「生まれかわりの旅」の原点～

はるか昔から人々は、山は神そのものであり神霊の宿る聖地、新たな生命を育む霊地と考えてきました。山伏がその霊地である山に籠るということは、現世の自分を一度葬り母の胎内に宿ることを意味します。山伏たちは自らを死者とみなして白装束をまとい「あの世」に見立てた山を駆け巡り、難行苦行をして穢れを祓い、わが身に山の神霊をいらいめ新たな魂として再び「生」を得てこの世に出峰します。山伏の目的は、即身成仏(生きたまま悟りを開く)するための修行であり、山で得た霊力を用いて生きとし生けるものを救済することです。この擬死再生の儀礼を現在に残す唯一の修行と言われているのが羽黒修験の「秋の峰入り」です。

現在は、神仏分離政策により、出羽三山神社が行う明治以降神式に改められた羽黒派古修験道の「秋の峰入り」と、羽黒山修験本宗羽黒山荒澤寺で行う神仏分離以前の法具法灯を継承し神仏習合のまま十界修行を行う古来の「秋の峰入り」の二つが毎年行われています。

《生まれかわりの旅：主なルート》





1

羽黒山

Mt. Haguro

しょうかんぜんぼさの ぶつ 聖観世音菩薩(現世利益の仏) = ぶつ 補陀落浄土 = 現在
いでのほのかみ 伊弉波神(出羽郡の産土神)・うかのみまのなると 稲倉魂命(穀霊の神)
※浄土とは仏の世界

羽黒山は、開祖・蜂子皇子が現在の世を生きる人々を救う仏(聖観世音菩薩)を祀ったといわれ、出羽三山の中で最も村里に近い、人々の現世利益を叶える山であったことから「現在の世を表す山」といわれています。

生まれかわりのはじまり

4 羽黒山のスギ並木

Hagurosan Suginamiki

(国指定特別天然記念物、
ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン 三ツ星)

参道の両側に並ぶ、総数580数株、樹齢350~500年の杉並木。荘厳な杉並木の中を歩く装束をまとった山伏や行者の列は、夏の風物詩となっています。



2 羽黒山の随神門

Hagurosan Zuishinmon

羽黒山の入り口。ここから2,446段の石段がはじまります。明治の神仏分離以前は「仁王門」と呼ばれていました。安置されていた仁王像は現在、麓の正善院黄金堂内に祀られています。



3 羽黒山の石段

Hagurosan Ishidan

随神門から山頂まで続く2,446段、約2kmの石段。江戸時代に羽黒山50代別当・天宥が、13年の歳月をかけて敷設しました。山頂までは約1時間。石段には33個の彫り物が刻まれ、すべて見つけると願いが叶うといわれています。

15 羽黒山の峰入り

Hagurosan Mineiri

開祖蜂子皇子の修行をたどる羽黒山伏の修行。「夏の峰」は一般参詣者が三山を駆ける夏山登拝を意味し、「秋の峰」は山伏養成を目的として約1週間の山籠もりを中心とする修行、「冬の峰」は2人の山伏による100日間の参籠修行。満願の日にあたる大晦日に羽黒山山頂で行われる「松例祭」は、修行で得た験力を競います。





5 羽黒山の爺スギ (国指定天然記念物)
Hagurosan Jijisugi

樹齢1,000年以上ともいわれる杉の老木。根回り10.5m、幹囲8.25m。羽黒山中において最大にして最古の杉です。

6 羽黒山五重塔 (国宝)
Hagurosan Gojunotou

平安期平将門の創建とされ、現在の塔は応永5年(1372年)に再建されたといわれています。屋根は日本古来の柿葺で、三間五層の素木造りという伝統的な手法による全国を代表する美塔の一つです。



7 羽黒山南谷 (県指定史跡)
Hagurosan Minamidani

「三の坂」の麓から右へ伸びる道を約400mほど進んだところに、「おくのほそ道」の旅で芭蕉が泊まった執行寺の跡、通称「南谷」があります。時間のとまったような苔むす静かな場所で、羽黒山の隠れた名所となっています。



8 羽黒山齋館 (鶴岡市指定有形文化財)
Hagurosan Saikan

「三の坂」を登りきったところにある旧華蔵院。かつて山内には30余の坊がありましたが、明治の神仏分離の際に残された唯一の建物です。現在は、三山参拝の参籠や精進料理を味わえる食事処として、また、羽黒山伏による「冬の峰」の参籠所として使われています。



9 羽黒山三神合祭殿 (国指定重要文化財)
Hagurosan Sanjin Gosaiden

羽黒山山頂にある社殿(旧羽黒山寂光寺)。羽黒山・月山・湯殿山の三神を合祀しています。中世の構造を残した貴重な茅葺木造建築物です。本殿前の「御手洗池」は、平安時代から銅鏡が奉納されていることから「鏡池」とも呼ばれています。



10 羽黒山蜂子神社 (鶴岡市指定有形文化財)
Hagurosan Hachiko Jinja

かつて人々のあらゆる苦悩を救ったといわれる出羽三山の開祖・蜂子皇子を祀る神社。もとは開山堂でしたが、神仏分離により羽黒山は神の山となり、明治7年(1874年)蜂子神社と改めました。



11 羽黒山正善院 黄金堂 (国指定重要文化財)
Hagurosan Shozenin Koganedo

古くは羽黒山頂の大金堂(現羽黒山三神合祭殿)に対し、麓の小金堂と言い、三十三体の観音像が黄金に映えることから黄金堂と呼ばれます。また、於竹大日堂では近世に絶大な信仰を集めた於竹大日如来を拝することができます。



12 手向の宿坊街 (鶴岡市歴史的風致維持向上計画重点区域)
Touge Shukubo-gai

羽黒山の門前町として宿坊が軒を連ねる手向は、古来より出羽三山信仰と修験道を支えてきた地域です。講中や参拝者を受け入れる姿は昔から変わらず、登拝の先達役や精進料理を継承し続けています。



13 松例祭の大松明行事 (国指定重要無形民俗文化財)
Shoreisai Otaimatsugyoji

松例祭は、手向地区から選ばれた「松聖」と呼ばれる2名の長老山伏が百日間、五穀豊稔、天下泰平を祈願する「冬の峰」を行います。悪魔「ツツガムシ」を退治する大松明行事は、毎年大晦日から元旦にかけて夜を徹して行われます。



14 出羽三山の精進料理
Dewasazan Shojinryori

山の恵みをいただき、伝統の技法によって丁寧に手間をかけて調理される出羽三山の精進料理。出羽三山に参拝する人々は、精進料理をいただき身を浄め、山へ向かう準備を整えるのです。



18 月山

(国指定天然記念物)

Mt. Gassan

阿弥陀如来 (死後の救済仏) = 極楽浄土 = 過去
月読命 (夜を司る神・水を支配する神)

標高1,984m、高く秀麗な姿から太古の昔より信仰を集め、「祖霊が鎮まる山」として「過去の世を表す山」といわれています。月山は極楽浄土を意味し、特に八合目の弥陀ヶ原は湿原が広がり高山植物が咲き乱れる光景は神秘的です。

「月」と「黄泉」の清浄なる世界



16 羽黒古道

Haguro Kodo

蜂子皇子が羽黒山で修行した場所と伝えられている鉢子集落の登山口から羽黒山頂に至る古道。蜂子皇子ゆかりの聖地「皇野」には、かつての行者を偲ぶ遺跡などが残されています。



17 清川関所跡

Kiyokawa Sekisho-ato

かつて最上川舟運を利用した参拝者は、ここから御諸皇子神社を拝して、鉢子集落から羽黒古道を経て、羽黒山へ向かいました。江戸時代の初め、出羽三山を訪れた松尾芭蕉上陸の地でもあり、句碑が建っています。



19 月山神社

Gassan Jinja

月山山頂に祀られている祭神は「月読命」。古は阿弥陀如来が祀られていましたが、いずれも死後の世界を司る神仏です。毎年8月13日には、柴燈護摩を焚き祖霊を里に送る「柴燈祭」が行われます。



20 八方七口 (江戸時代、八方七口の一つ本道寺口の様子)

Happo Nanakuchi

月山に登拝するための八つの登り口。かつてはそれぞれの登り口に寺院や宿坊街がありました。羽黒山の荒澤口(羽黒口)、阿吽院の肘折口、日月寺の岩根沢口、注連寺の七五三掛口、大日坊の大綱口、大日寺の大井沢口、本道寺の本道寺口、照光寺の川代口(寛永年間に閉鎖)。



21 月山神社出羽神社湯殿山神社撰社 月山出羽湯殿山三神社社殿 (旧日月寺本堂) (国指定重要文化財)
Gassan Jinja Ideha Jinja Yudonosan Jinja Sessha Gassan-Ideha-Yudonosan Sanjinja Shaden (Kyu-Nichigatsuji Hondo)

「八方七口」登拝口の一つ「岩根沢口」にある、月山・羽黒山・湯殿山の三神を祀る神社。旧日月寺は嘉慶元年(1387年)に創建し、現在の伽藍は再建されたものですが、神仏習合の姿を伝える貴重な建築物であり、東北最大級の木造建築です。



22 湯殿山神社 (旧本道寺)
Yudonosan Jinja (Kyu-Hondoji)

八方七口の一つ「本道寺口」にある神社。かつては門前集落に二十数軒の宿坊があり、庶民信仰の証である代参塔群が見られるなど、出羽三山への参拝者でにぎわった当時の面影を残しています。



23 本道寺 代参塔群 (西川町指定有形文化財)
Hondoji Daisanto-gun

かつて参拝が困難であった人々が多額の寄進を行って住職に代参を依頼する信仰形態があったことを伝えるもので、その際に寄進額の一部を使って建立されたものが「代参塔」です。



24 湯殿山神社 (旧大日寺)
Yudonosan Jinja (Kyu-Dainichiji)

八方七口の一つ「大井沢口」にある神社。応永年間(1394~1427年)道智上人が、大日寺までの「道智道」と呼ばれる行者道を整備したことから、関東、福島、置賜方面からの参拝者で賑わったといわれています。



25 大日寺 代参塔群 (西川町指定有形文化財)
Dainichiji Daisanto-gun

大日寺は江戸時代中期に最も繁栄し、出羽三山に向かう行者の列が長く続いたといわれています。境内に残る数々の代参塔や遺跡に、当時の人々の思いを見ることができます。

未来 26 湯殿山

Mt. Yudono

大日如来 (永遠の生命の象徴) = 密厳浄土 = 未来
 大山祇命 (山の神)・大己貴命 (国土の神)・少彦名命 (医薬の神)

大自然の生産力の象徴でもある大日如来は、全てのものを生み出す山の神でもあり、「未来の世を表す山」といわれています。湯の湧き出る御神体に触れ、人々は生まれかわりを果たしたと実感する聖地です。



圧倒的な神秘の実感



27 六十里越街道

Rokujyurigoe Kaido

山形県の内陸部と海岸部を結ぶ約100kmの道で、江戸時代には出羽三山への参拝道として栄えました。かつて参拝者を迎えた宿場跡や茶屋跡、山伏が滝行を行った「七ツ滝」が街道沿いにあります。



29 大日坊 仁王門

(県指定有形文化財)

Dainichibo Niomon

八方七口の一つ「大網口」の別当寺である大日坊は湯殿山行者の修行道場として繁栄した寺で即身仏(真如海上人)が祀られています。仁王門には風神雷神が安置され、その奥に仁王像が鎮座しています。



31 注連寺 七五三掛桜

(鶴岡市指定天然記念物)

Churenji Shimekakezakura

八方七口の一つ「七五三掛口」にある注連寺の境内に咲く樹齢200年のカスミザクラ。弘法大師がこの木の下で修行したといわれ、湯殿山御縁年の丑年にはひとりにて注連が掛かるという伝説があります。



28 旧遠藤家住宅

(県指定有形文化財)

Kyu-Endo-ke Jyutaku

六十里越街道の途中、田麦俣地区には出羽三山への参拝者を迎えた旅籠屋がありました。旧遠藤家住宅は、雪深いこの地域の生活を今に伝える茅葺屋根の寄棟鬼造りの多層民家です。



30 大日坊の皇壇スギ

(県指定天然記念物)

Dainichibo Odansugi

登拜口の一つ「大網口」の大日坊の旧境内にそびえ立つ杉の巨木。根周り8m、幹囲約6m、高さ27m、推定樹齢1,800年。湯殿山へ向かう参詣道「六十里越街道」の要所にあり、修験者はこの杉に手をあわせ、修行の成就を祈ります。

「冬峰」と「松例祭」

文：坂本大 三 郎



出 羽三山の一角、羽黒山は山伏の拠点として知られ、四季ごとにおこなわれていた山伏修行は現在、秋峰と冬峰の修行が残されています。

明治におこなわれた廃仏毀釈運動によって、羽黒山頂にあった寂光寺は廃され出羽三山神社となり、秋峰修行は麓の荒澤寺正善院と出羽三山神社がそれぞれにおこなうようになりました。冬峰修行は松例祭という羽黒山の年越祭りと関連しておこなわれるのですが、廃仏毀釈以降は一時中断の後に正善院黄金堂でおこなわれ、明治時代中期からは山頂の出羽三山神社でおこなわれるようになったと伝えられます。



松 例祭は羽黒山の麓の日向集落から松聖とよばれる二人の山伏が選出され、大晦日に先立って豊作を祈って五穀(稲、大麦、大豆、小豆、ゴマなど)の穀物霊を拝む百日間の籠り修行をおこないます。これが冬峰修行です。祭りの中で二人の松聖は互いに修行の成果を競い合います。それを験競べといいました。

では松例祭とはどのような祭りなのでしょうか。千三百年前、ソランキという鬼がこの土地にあらわれ、黒雲の隙間から火を吐き山の上から悪臭を吹いたために多くの人々が病になり命を失ったそうです。人々は神に祈りを捧げたところ「鬼形をつくって焼き尽くせ」とお告げが下り、お告げの通りにしたところソランキを退治することができた……、これが松例祭のはじまりなのだそうです。



祭 りは故事をたどるように進行し、大晦日の午後三時頃に綱で作られた鬼形のソランキを切り殺す「綱まき」がおこなわれます。しかし強い生命力をもつ鬼は日が沈むと復活すると考えられ、それを象徴する「まるきなおし」という儀礼で元の半分くらいのおおたいまつとして作り直されます。

夜11時近くなると、山頂の庭で若者たちによって大松明が引き出され焼き払われる「大松明引き」によって鬼は退治され、やがて羽黒山は新年を迎えます。

その後、新年に生まれ変わった国々のうち、東国三十三国を羽黒山伏、西国二十四国を熊野山伏、九州九国を英彦山山伏の領土と取り決める「国分神事」がおこなわれます。

羽黒山伏の領土である三十三国は、明治以前の羽黒山頂で祀られていた観音が三十三体に身を変えて人々を救うと考えられたことに由来しています。山麓の正善院黄金堂には、等身大の三十三体の観音様が祀られており、大晦日の日にはこちらでも大祈禱がおこなわれ、そこでは厳粛な儀礼の雰囲気を感じることができます。



奥 深い松例祭を駆け足でみていったため、語り残した点はまだまだ多いのですが、これが僕の目からみたおおよその松例祭です。

麓には縄文遺跡があり、古い時代からこの土地では新年を迎える祭りがおこなわれてきたことが推測されます。時々によって変化しながらも人々に守り伝えられた祭りをみてみれば、根底に流れる遙かな時間の蓄積を感じる特別な体験ができるはずです。